

Euro Indicators

Euro Weekly (1/12~1/15)

発表日：2010年1月18日(月)

～ユーロ圏・英国ともに10-12月期はプラス成長も、プラス幅は小幅か？～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

■ 1/12~1/15に発表された主な経済指標

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/12 (火)	(英) 12月R I C S住宅価格	30%	37%	35%
	(英) 11月D C L G住宅価格 (前年比)	+0.6%	+0.1%	▲2.2%
	(英) 11月財サ貿易収支 (100万ポンド)	▲2,912	▲3,000	▲3,120
	(英) 11月財貿易収支 (100万ポンド)	▲6,784	▲7,000	▲7,016
1/13 (水)	(仏) 12月消費者物価 (前月比)	+0.3%	+0.2%	+0.1%
	(前年比)	+0.9%	+0.8%	▲0.2%
	(英) 11月鉱工業生産 (前月比)	+0.4%	+0.3%	横ばい
1/14 (木)	(前年比)	▲6.0%	▲6.1%	▲8.4%
	(ユーロ) ECB主要政策金利	1.00%	1.00%	1.00%
	(ユーロ) 11月鉱工業生産 (前月比)	+1.0%	+0.5%	▲0.3%
1/15 (金)	(前年比)	▲7.1%	▲8.4%	▲10.9%
	(EU) 12月新車登録台数 (前年比)	+16.4%	—	+26.9%
	(ユーロ) 12月消費者物価 (前月比)	+0.3%	+0.3%	+0.1%
	(前年比)	+0.9%	+0.9%	+0.5%
	(ユーロ) 11月貿易収支 (10億ユーロ)	+3.9	+5.0	+4.7
(独) 12月卸売物価 (前月比)	+0.2%	+0.5%	+0.7%	
(前年比)	+0.2%	+0.5%	▲3.2%	

(注) コンセンサスはBloomberg調査

■ ユーロ圏：ECBは景気回復の持続性に加え、財政健全化の行方も注視

<ユーロ圏 (1/14) : ECB政策会合>

ECBは主要政策金利を現行の1.0%に据え置き。景気・物価判断は前回会合時から不変で、現行の政策金利水準は適正との見方を示した。前回会合で一部終了した資金供給オペなどの非伝統的な金融政策手段については、3月会合で追加終了措置が必要かを検討する方針。

【評価】 ECBは先行きの景気回復をメインシナリオに置きつつも、その持続性に対して警戒姿勢を崩していない。在庫循環や政策効果の一巡による景気への下押し圧力と、企業部門で先行する回復の動きが家計部門に浸透していくことによる前向きな循環とを天秤にかけながら、年後半にかけて利上げ時期を模索する展開を予想する。財政政策に関する発言に時間を割いたことから分かる通り、今後の金融政策運営を検討するうえで、各国の財政事情の行方にも注目している模様。詳細は1月15日付けレポート「欧州：ECBは政策金利を据え置き」を参照されたい。

<ユーロ圏 (1/14) : 11月鉱工業生産>

11月のユーロ圏の鉱工業生産は前月比+1.0%と事前予想を大きく上回る伸び（前月は同▲0.3%）。品目別には、エネルギー（同▲2.2%）がマイナスの一方、中間財（同+1.8%）、資本財（同+1.1%）、耐久消費財（同+1.8%）、非耐久消費財（同+0.6%）がプラス。国別には、ドイツ（同+0.7%）、フランス（同+1.1%）、イタリア（同+0.2%）、スペイン（同+0.1%）の主要国が揃ってプラス。

【評価】 10・11月平均では7-9月期対比+0.7%と増産。10-12月期の製造業活動の拡大持続を示唆。

<EU25カ国 (1/15) : 12月新車登録台数>

12月のEU25ヶ国の新車登録台数は前年比+16.4%と7ヶ月連続で前年を上回った。前年同月の裏が出た影響もあり、前月の同+26.9%からは伸び率が鈍化したものの、高めの伸びを続けている。

【評価】 環境対応車への買い替え奨励制度の効果から、引き続き前年比で大幅なプラスを記録。だが、9月初に同奨励措置が終了したドイツでは同▲4.6%と前年割れ。

<ユーロ圏 (1/15) : 12月消費者物価>

12月のユーロ圏の消費者物価は前年比で+0.9%と、前月の同+0.5%から伸び率が拡大した。主因はエネルギー価格の上昇（11月：同▲2.4%→12月：同+1.8%）。エネルギー、食料、アルコール飲料、タバコを除いたコア物価は同+1.1%（前月は同+1.0%）。

【評価】 エネルギー価格の上昇が全体の計数を押し上げ。コア物価は既往最低水準であった前月から僅かに伸び率が拡大したものの、価格上昇はホリデーシーズンのパッケージ旅行など僅かな商品に限られ、全体としての価格の安定基調は崩れていないものと判断。

<ユーロ圏 (1/15) : 11月貿易収支>

11月のユーロ圏の貿易収支（未季調値）は48億ユーロの黒字と、前年同月の70億ユーロの赤字から収支尻が改善。季節調整後の貿易収支は39億ユーロの黒字と、前月（同47億ユーロの黒字）から黒字幅が縮小。輸出が前月比▲0.4%と2ヶ月連続の減少の一方、輸入が同+0.3%と2ヶ月振りに増加した。

【評価】 10・11月平均の貿易黒字（季節調整値）は43億ユーロと、7-9月期平均の38億ユーロから僅かに拡大。輸出入の内訳は、輸出が7-9月期平均対比+1.2%の一方、輸入が同+0.7%。ここから、10-12月期GDPの外需は前期比フラットから小幅プラス寄与となる可能性が示唆される。

■ 英国：各種統計は昨年10-12月期の成長率のプラス転換と整合的だが、プラス幅は小幅にとどまるか？

<英国 (1/12) : 住宅関連統計>

12月のR I C S住宅価格調査では、「過去3ヶ月に住宅価格が上昇した」と回答した人の割合が「下落した」と回答した人の割合を30%上回った。「上昇」が「下落」を上回るのは5ヶ月連続だが、前月の35%からはやや軟化。一方、11月のD C L G住宅価格指数は前月比+1.7%と7ヶ月連続で上昇。前年比で

は+0.6%と08年6月以来のプラス転換。

【評価】 その他の住宅関連指標と同様に、住宅価格の底打ち・緩やかな上昇基調を確認。

<英国 (1/12) : 11月貿易収支>

11月の財・サービスの貿易収支は▲29.1億ポンド、財のみの貿易収支は▲67.8億ポンドと、何れも前月から赤字幅が縮小。財収支の地域別内訳は、EU圏が10月：▲35.4億ポンド→11月：▲37.5億ポンドと赤字幅が拡大の一方、非EU圏が▲34.7億ポンド→▲30.3億ポンドと赤字幅が縮小。

【評価】 10・11月平均の財・サービス収支の赤字幅は7-9月期平均から拡大。輸出が7-9月期平均対比+4.2%と堅調に拡大するが、輸入が同+5.0%とこれを上回る伸び。ここから、10-12月期GDPの外需は前期に続きマイナス寄与となる可能性が示唆される。

<英国 (1/13) : 11月鉱工業生産>

11月の鉱工業生産は前月比+0.4%（前月は同▲0.1%）。ここ数ヶ月はプラス・マイナスを交互に繰り返しているが、前年比では▲6.0%とこれまでの2桁台の落ち込みからマイナス幅が縮小してきた。

【評価】 10・11月平均では7-9月期対比+0.1%と辛うじてプラス圏。だが、12月のPMI製造業指数（1/4に発表）が51.8→54.1に増加するなど、製造業活動の拡大基調が持続していると判断。

以上